

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	土木建築部 公園・生活排水課
評価対象期間	平成21年4月1日～平成25年3月31日

1 指定概要

施設概要	名称	大分スポーツ公園及び高尾山自然公園	施設種別	レクリエーション・スポーツ
	所在地	(大分スポーツ公園)大分市横尾1351番地ほか (高尾山自然公園) 大分市横尾4225番地ほか		
	設置目的	県民のスポーツ振興及び健康増進を図る。		
指定管理者	名称	株式会社 大宣		
	代表者名	代表取締役社長 朝倉 弘美		
	所在地	大分市東春日町1-8		
指定管理業務の内容	① 公園施設の維持管理及び修繕に関する業務 ② 都市公園の利用の受付及び案内に関する業務 ③ 都市公園施設の利用の許可に関する業務 ④ 都市公園の利用の促進に関する業務 ⑤ 地域、NPO等との連携に関する業務 ⑥ ネーミングライツパートナーシップ事業に関する業務			
料金制度	利用料金 ・ 使用料 ・ 該当なし			
指定期間	平成21年4月1日～26年3月31日(5年間)			

2 評価結果

評価項目及び評価のポイント	配点	評価レベル	得点
1 施設の設置目的の達成(有効性の向上)に関する取組み	40		28
(1)施設の設置目的の達成	20	3	12
①計画に則って施設の管理運営(指定管理業務)が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか(目標を達成できたか)。			
②施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。			
③複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。			
④施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。			
【評価の理由】			
○ スポーツ公園の利用者数は、目標指標120万人に対し、4年間(平成21年度～24年度)の平均で1,186,262人となり、達成率は98.9%である。大分トリニータの1試合ごとの観客数が年々減少している(21年度18,428人→24年度9,721人)ことと、大型イベントの開催の有無が利用者数に大きく影響している。			
○ 大銀ドームでの大規模イベントの誘致に取り組んだが、サッカー日本代表戦、大規模コンサートは、平成21年度及び22年度の2回しか開催することができなかった。24年度は大型映像装置の改修工事と重なったため内定していた日本代表戦が急きょ他の会場に振り替えられてしまう不運はあったが、指定管理者のなお一層の努力が求められる。			
○ 目標指標120万人を達成するために、大宣は大規模イベントの誘致など4項目の「自主目標」を設定している。平成24年度は、文化スポーツ合宿誘致(目標50団体→24年度実績66団体)及び全国大会・九州大会の誘致(目標年3回→24年度実績年5回)は達成している。しかし、大規模イベントの誘致(目標1回→0回)及びホームページアクセス数(目標21万件→11万件)の目標は未達成となっている。			

- 指定管理者が行う自主事業として、テニススクール(平成19年度から)、硬式野球初心者教室(21年度から)及びそば道場(平成22年度から)を開催し、利用者の方に喜ばれている。特に、そば道場については参加者に好評で6か月の予定期間を過ぎても継続を希望する人が多く、コースを倍に増やして開催している。
- サービス改善提案事業として、エンジョイクリーンデイ、館内サインの充実及びパソコンからの利用予約の3本の事業に取り組んだ。特に、パソコンからの利用予約については、21年度にテニスコートクラブハウスまで光ケーブルを引き込み、22年度に予約システムを構築し、同年9月からスタートしたところである。現在100人を超える方々が登録し、利用されている。
- ドーム内の空き会議室を減らすため、卓球ルーム「ピンポン館」や「ホリデースタディールーム」を設置して、常連で利用する人も増加している。

(2) 利用者の満足度

①利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。

②利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。

③利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。

④利用者への情報提供が十分になされたか。

⑤その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

20 4 16

【評価の理由】

- 各年度とも利用者アンケートを行っており、「目安箱」と名付けた随時の意見受付をはじめ、ドーム等の利用者アンケート(平成24年度420人)及びテニスコート利用者アンケート(217人)を行っており、より多くの利用者からきめ細かに意見を聞く体制をとっている。
- 利用者アンケートの結果、利用の感想(平成24年度)は「大変良い」及び「良い」の評価が82%となっており、職員の対応を中心に、施設利用者の満足度は高い。また、調査結果を分析して、運営上の課題を把握することにも努めている。
- アンケートの結果については、その都度対応策も含めて詳細にホームページにおいて公表しており、真摯に対応しているといえる。
- 利用者からの意見・苦情に関しても、指定管理者のみでできることにはすぐに対応し、県との協議や報告が必要なものについてはすぐに協議、報告が行われている。

2 効率性の向上等に関する取組み

30 18

(1) 経費の低減等

①施設の管理運営(指定管理業務)に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。

②清掃、警備、設備の保守点検等の業務について再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。

③経費の効果的・効率的な執行がなされたか。

20 3 12

【評価の理由】

- 管理運営業務の実施に当たっては、九州電力との電気供給契約において、22年度には850KWを650KWに変更し、24年度からは650KWを550KWに変更しており、平成25年度からの電気料値上げの影響を最小限に抑える努力をしている。
- ドームに設置されているエレベーター7基のうち2基は常時停止しており、館内の照明も不必要なものはこまめにスイッチを切るなど、省電力に努めている。
- 公園内の草刈り・草取り作業の一部をボランティアに行ってもらうほか、指定管理者のスタッフが毎月1回、自ら草刈りを実施することにより、管理経費の削減に努めている。

(2)収入の増加	10	3	6
①収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。			
【評価の理由】 ○ 施設使用料金は、21年度101,989千円から24年度69,165千円と大きく減少しているが、これは平成22年度より大分トリニータの試合に係る施設使用料が全額免除になったことが大きな原因であると考えられる。ただ、指定管理者が選定時に提出した計画では年1回はサッカー日本代表戦か大規模コンサートを開催することとなっていたが、21年度(キリンカップ)と22年度(エグザイルコンサート)は実現できたものの23～24年度は誘致できなかった。しかしながら、全国大会、九州大会、各種スポーツ大会、展示会、お祭り、合宿等の誘致の積み重ねにより収入の下支えの努力がうかがえる。			
3 公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組み	30		24
(1)施設の管理運営(指定管理業務)の実施状況			
①施設の管理運営(指定管理業務)にあたる人員の配置が合理的であったか。	15	4	12
②職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか。			
③地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。			
【評価の理由】 ○ 指定管理者として施設の管理運営に当たる人員は、(株)大宣の社員18人であるが、そのほか(株)メンテナンス、雪印種苗(株)、(有)フーディーズなど、パートナー企業の人員も常時ドームに詰めており、30人を超える人員がスポーツ公園の日常の管理運営に当たっている。 ○ NPO法人、地元自治会、ボランティアグループなど6団体で「大分スポーツ公園サポーターズクラブ」を組織し、清掃活動、花壇の整備、自然観察会など活発に活動しており、指定管理者と連携・協力して管理運営業務を行っている。 ○ 地域との連携を図るため、地元中学の職場体験学習や高校生の清掃活動、企業のボランティア活動を積極的に受け入れている。			
(2)平等利用、安全対策、危機管理体制など			
①関係法令(地方自治法、労働関係法令、通則条例、設置条例等)が遵守されているか。	15	4	12
②施設の利用者の個人情報保護のための対策が適切に実施されているか。			
③利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。			
④施設の管理運営(指定管理業務)に係る収支の内容に不適切な点はないか。			
⑤管理物件の修繕や日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。			
⑥防犯、防災対策等の危機管理体制が適切であったか。			
⑦事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。			
【評価の理由】 ○ 職員の資質向上のため、各種資格の取得を推奨している。職員の希望も考慮のうえ、体育施設管理士、体育施設運営士、防火管理講習、防災管理講習などの資格を取得している。 ○ 毎月1回全体会議を開催し、必要事項の伝達などを行うとともに、年に1回、協力企業の職員も含めて管理のための研修会を開催している。また、AEDの取り扱いなどに習熟するため普通救命講習にも力を入れている。 ○ 施設の安心、安全を図るため、県と共同で安全管理マニュアルを制定し、定期点検(1か月点検、3か月点検、イベント後点検など)を行うことにより、公園内の安全を図っており、管理瑕疵による事故は発生していない。 ○ 利用者の安全を図るため施設賠償責任保険に加入し、万一の事故に備えている。 ○ 施設の利用に当たっては、施設ごとに各種大会の優先順位を定め利用計画を決定している。一般の利用希望者について希望が重複した場合は抽選により利用者を決定している。 ○ 毎日午前と午後1回ずつ、職員2人体制で高尾山自然公園及びスポーツ公園全体を巡回し危険箇所がないかどうかを点検している。この巡回により、公園内の事故を未然に防ぐ体制をとっている。			

【選定委員の意見】

平等な施設利用や関連法令の遵守等の基本事項や施設利用の受付・案内・許可、施設・設備の保守・点検、修繕、清掃、保安・警備、芝(スポーツターフ)管理、緑地管理、利用者の安全確保、利用者ニーズの把握と対応、地域住民とNPOとの協働、広報、イベント・大会等の誘致など多岐にわたる業務の処理を行っており、大分スポーツ公園・高尾山自然公園の適正な維持・管理及び利用の促進がなされていると思われる。

利用者数の目標指標1, 200, 000人に対し平成21～24年度の実績(平均)は1, 186, 262人で達成率98.9%となっており、サッカー日本代表戦や大規模コンサート等の開催はなかったものの各種行事や合宿の誘致等により利用者の確保が図られている。指定管理者が選定時に提出した事業計画の内容については概ね計画どおり適正に管理運営がなされていると考えられる。

【総合評価】

合計得点(100点満点)	70	評価ランク(A～E)	C
--------------	----	------------	---

【評価の理由】

- 目標指標利用者数は1, 200, 000人となっているが、平成21～24年度の実績(平均)は1, 186, 262人となり目標に達していない。サッカー日本代表戦やコンサートなどの大規模イベントが開催できないと1, 200, 000人を達成することは難しいものと思われる。しかしながら、全国大会、九州大会、各種スポーツ大会、展示会、お祭り、合宿等の誘致を行い、利用者の増加を図っている。
- 利用者満足度調査にも真摯に取り組んでいる。24年度は、ドーム等のアンケート420人、テニスコートアンケート217人、合計637人の方々から意見をいただいております。結果においても82%の方から良い以上の意見をいただいております。お客様には満足していただいているものと考えられる。またアンケート結果についても、その詳細をホームページに公表して、ひとつひとつの要望に適切に対応している。
- そして、NPO法人、地元自治会、ボランティアグループ、近隣の学校、企業等と協力して清掃活動、花壇の整備、自然観察会等、活発に活動しており、地域との連携が保たれている。

【今後の対応】

- 自主目標にもあげているとおり、サッカー日本代表戦や大規模コンサートを年に一回は誘致することが望まれる。指定管理者の今まで以上の努力を求めていくと同時に県も最大限の協力をしていきたい。
- 大分スポーツ公園は平成13年の供用開始から10年を経過し、これから経年劣化等による大規模な改修が必要となるが、指定管理者には今後とも利用者の安全確保を第一に日常点検の徹底と不具合箇所の早期発見、早期対応(指定管理者で対応可能なものは修繕、対応不可能なものは県への報告)をお願いしたい。

【指定管理者評価部会の意見】

- 目標指標である利用者数の目標達成は21年度のみにとどまり、使用料収入も減少傾向にあるものの、大分トリニータの観客数減、東日本大震災の影響による大型イベントの自粛などが考慮されるため、ある程度評価できる。
- NPO、地元自治会、ボランティアグループ等とうまく連携して管理運営業務を行っているほか、テニススクールや硬式野球初心者教室、そば道場等自主事業を定着させるとともに、収支が健全に推移している点は評価できる。
- 芝の維持管理等の制約条件がある中で、イベント誘致については、やや受け身にならざるを得ない点は理解できるが、利用者数の増加等具体的な成果につながるよう大規模イベント誘致への前向きな取組を期待したい。
- 安全対策では、マニュアル作成、老朽化による危険な場所にはサイン等で利用者に案内するなどの工夫もみられるが、利用者年間120万人の大規模施設であること、開設10年経過し各種設備(観客席・トイレ)の不具合リスクが高まると予想されること等から、今後もきめ細かく利用者満足度向上に対応する工夫を期待する。